

news paper

#4

As Soon

RACE ARCHIVE
Rd.4 AUTOPOLIS

www.inging.co.jp



TODAY'S RACE Rd.4
Sportsland SUGO
6.17 SAT / 18 SUN

INTERVIEW

Sho TSUBOI #38

38号車 ドライバー 坪井 翔

良い流れが
来ている
get 3rd!



SUPER FORMULA 2023
P.MU/CERUMO INGING RACE REPORT

©INGING MOTOR SPORT Supported by WUCA Co., Ltd.

アプリをDL後、ドライバーを登録して応援しよう!
 Sho Tsuboi 坪井 翔 Sena Sakaguchi 阪口 晴南
 スマホで登録 PCで登録
<https://sfgo.jp/>

RACE ARCHIVE Rd.4 AUTOPOLIS レースアーカイブ Round.4 オートポリス

決勝 5月21日(日) 5月20日(土)の公式予選では、坪井翔が自身にとって嬉しいキャリア初のポールポジションを獲得、天候：晴れ 阪口晴南も復調の3番手と、第4戦オートポリスの予選日は午前のフリー走行での不調から見事なり 路面：ドライ カバリーをみせて上位を占め、喜びに沸いたP.MU/CERUMO・INGING。これを決勝レースでのワン・ツーに繋げるべく、チームは快晴に恵まれた5月21日(日)に向け準備をしっかりと整えていった。

両者ワン・ツー 好発進でスタート 午後3時からの決勝レースは、気温23度/路面温度38度というコンディションで迎えた。初めてのポールポジションからのスタートとなった坪井だが「思っていたよりも緊張はしなかった」と、程よい緊張感とともにレースに臨んだ。スタートでは坪井が好発進をみせる一方、最大のライバルとも見ていた2番手の#15 ローソンがやや伸びない。逆に、3番手から得意のスタートを決めてみせたのは阪口だ。一気に坪井に並びかけ、P.MU/CERUMO・INGINGの2台が先頭に並んで1コーナーへ突入する。イン側の坪井がトップを守ったが、チームにとっては首位に坪井、2番手に阪口と続く願ってもない展開となった。

敵機、猛プッシュ ただ坪井は序盤から、いまひとつフィーリングが良くなかった。2番手の阪口も同様だったものの、中高速コースであるオートポリスは前走車の空気の乱れの影響が大きく、#15 ローソンもなかなか阪口に接近することができず、その間に坪井は少しずつ差を広げていくことに成功した。そんな流れに業を煮やしたか、#15 ローソンはピットウィンドウがオープンしてすぐの13周目にピットに入り、アンダーカットを狙ってきた。当然、2番手の阪口もこれに対応するべく、14周目にピットを行うが、#15 ローソンのペースが速い。ピットアウトした阪口の鼻先をかすめるかのように1コーナーへアプローチしていき、阪口はピット作業をこなしたなかでの2番手に順位を落としてしまった。

縮まる差 追われる両者 そんななか、#15 ローソンの前方にはまだピットインを行っていない下位グループが近づいてきた。これを#15 ローソンは処理していくが、その間にトップの坪井はペースを上げたいところだった。しかし、中盤以降はペースが苦しくなってしまう。#15 ローソン、阪口のピットインにともない2番手に浮上していた#37 宮田莉朋が坪井の背後に接近してきてしまい、#15 ローソンとの間に築いておきたい差も足りなくなってしまった。坪井はたまたま25周目にピットインを行い、チームは6.3秒の作業で送り出したが、#15 ローソンがやはり坪井を先行してしまった。とはいえ、これで諦めるわけにもいかない。#15 ローソンに対し、坪井のタイヤはフレッシュ。これを活かし、27周目には自己ベストタイムをマークし、#15 ローソンに肉迫した。

阪口、戦いの末の大ダメージ 一方の阪口はピットアウト後 #5 牧野任祐を従え、表彰台を狙う戦いを展開していた。しかし27周目、#5 牧野との間にピットアウトしたばかりの#53 大湯都史樹が急接近。28周目、ジェットコースターストレートと呼ばれる下り坂で阪口にバ阪口はきっちりインを守り、ターンインに備えていたが、予期せぬタイミングで#53 大湯が左リヤにヒットしてきた。幸い阪口はコースに留まることができたが、左リヤホイールにダメージを負い緊急ピットインを強いられ、さらに翌周にはダメージの影響でリタイアを強いられる。#53 大湯はグラベルにストップし、その後危険なドライブ行為としてペナルティを受けた。



INTERVIEW

Sho Tsuboi #38 38号車 ドライバー 坪井 翔

良い流れが来ている 昨 年までは表彰台すら遠い存在でしたが、今回3位を悔しいと思えるくらい成長できたのかなと思っています。決勝レースに関しては、少しペースが足りなかったですし、セーフティカーのタイミングも最悪でした。今回レースペースが遅かった理由をしっかりと見つけなければならないと思っています。とはいえ、今季は速さがやっと出てきて、ライバルのトップチームと戦える良い兆しが見えているのはすごくポジティブです。次戦はスポーツランド SUGO でのレースとなりますが、良い流れが来ていると思いますし、あとひとつ歯車が噛み合えば優勝も見えてくると思うので、こういったレースを今後も続けられるようにしていきたいなと思っています。

Yuji Tachikawa チーム監督 立川 祐路

序 盤はワン・ツーと非常に良い展開でしたが、その後はロングランのペースの面で少し負けていましたね。そんななかでもチームとして精一杯やってきました。3位はポールポジションから考えると残念な結果かもしれませんが、今季坪井選手はずっと表彰台圏内のレースをしているので、これを毎回繰り返していれば勝つチャンスも出てくるし、『3位で残念だ』と言えるのは、逆に言えば非常に良い状況だと思うので、またリベンジしたいと思います。阪口選手も良いレースをしてきましたが、接触は残念の一言です。非はないと思います。阪口選手も良く頑張っているので、次戦さっさと結果を残していきたいと思います。皆さん応援ありがとうございます。

Sena SAKAGUCHI #39 39号車 ドライバー 阪口 晴南

スタートでワン・ツーになったときには個人的にも気持ちが沸き立ちましたし、チームも盛り上がったのでは

このアクシデントでレースはセーフティカーが導入されるが、これが坪井にも悪い流れとってしまいました。#15 ローソンへの追撃に水を差されてしまったばかりか、セーフティカー中にピットインした#37 宮田に再開後の38周目にオーバーテイクを許してしまったのだ。これで坪井の順位は3番手となり、さらに後方からは#3 山下健太や#20 平川亮が接近してきた。坪井はこれをなんとか退け3位でフィニッシュしたが、強力なレースペースと良い流れがあれば届いていた優勝を逃す結果となった。坪井とチームにとっては、今季コンスタントに表彰台を得ていることで自信には繋がったが、一抹の悔しさも残った。

配できていたものの、僕のペースがピットに入るか、入らないかの判断を迫られるあたりから落ち出してしまい、難しい状況になりました。ちょっとずつペースが落ち出しているの、そこは直さなければいけないところだと思います。とはいえ、今回ニューイヤーでタイムが出ているようになってきているのは前進なので、今回のように常に上位で走れるようにしていきたいですね。接触自体はすごく残念ですし、僕としてはどうしようもなかったところなので、チームには申し訳ないですが、そこは切り替えていきたいです。



Things are getting better

To be Continued...



Results	38	予選	1位	決勝	3位	39	予選	3位	決勝	リタイア
	坪井 翔					阪口 晴南				